## 京都大学

はやのん理系漫画制作室

第1回 「家族のケアと 社会の関係」 このまんがは 京大の研究を 紹介していく 読み物です!

今回は 社会と家族の お話ですよ! 変化する社会の中で どのようにしたら 人々がより良い子育てや ケアをして暮らしていけるか?

> というテーマで 調査や研究を しています!



現在の社会では 「家族」の形が 多様化しています!

昔は 父母がいて きょうだいがいて ……と

> 「普通の」 家族像が あったわけですが

> > 国家

現代では 親がいないとか 血のつながりのない人と 暮らしているとか 同性カップルがいたり することもありますよね?

> そこでこのような 関係全体のことを 「親密圏」 と呼ぶようになりました

親密圏

そして 人々を支え 取り囲むのが

市民社会

マーケット

といった 「公共圏」 です

文学研究科 社会学研究室 アジア親密圏 / 公共圏教育研究センター

落合恵美子 教授

日本は

子供を育てるにあたり この公共圏からの助けが 不足しています



福祉が 足りていない

・待機児童問題

・産休育休取得

・職場への復帰の制度的な難しさ

・母子家庭や 移民家庭などへの 支援の不足 マーケットも不十分

ベビーシッターや 家事代行サービスが

- ・ない
- ・少ない
- ・利用しづらい
- ・費用が高すぎる

周囲の人に 助けを求めにくい

- ・核家族
- ・子供を預けられる人がいない
- ・結婚で地元を離れた
- ・近所づきあいの減少
- ・ボランティアや NGO の未発達

日本人は ベビーシッターや 家事代行に 抵抗感のある人が 多いと思うんです けど…?

でも昔は 「お手伝いさん」や 下宿して仕事や家事 子育てを手伝う 「ねえや」「書生さん」 の存在がありましたよね

111

アッ!? 昔の文学作品 とかにもよく 出てきますよね!

この数十年で 失われてしまった 感覚を取り戻せば 「家族以外の人を 家に入れて家事を任せる」 という選択ができるように なるかもしれませんね





家族のケアを 家族だけ……

> しかもその中でも できる人だけが 抱え込んで 抱えきれなくなるのが 問題なんです

孤立した状況の中で 追い詰められていく人が とても多いです

そして虐待へ

つながるケース **も.....** 

問題が起きてからの 介入ではなく 予防的支援を!

> 子供の年齢や 母親が働いているか どうかにかかわらず 希望すれば誰でも 集団保育を 利用できるように すべきでしょう



出生率低下の一方 高齢化が進み 介護の必要な高齢者も 増えています

> 実際そのために 女性ばかりでなく 男性もしばしば 退職を余儀なく されています

育児や介護といった 家庭や生活の都合に フレキシブルに対応できる 勤務が可能になれば 皆働きやすくなりますよね

介護も



仕事も!

育児も介護も 男女関係なく 誰にでもやってくる ライフイベント!

> これがもっと 理解されるように なればと思います!

「国家」が強い欧州 「マーケット」 が強い アメリカやアジアと それぞれ特徴はありますが

その社会でうまくいくような 「国家」「マーケット」 「市民社会」による 支援のバランスを作り出すのが 大切です



家族を ひらく!

ケアをしながら 楽しく生きられる 社会を つくりましょう!



はやのん理系漫画制作室

第2回 「サービスは 闘争だった!?! 山内先生の 『「闘争」としてのサービス』 っていう本があるのを知りました!

> お店のサービスは じつは「闘争」だった ……ってお話みたいです



いったい お店でどんな 闘いがあるという のでしょう!?



たとえば飲食店での お店の人と 客となる人とのやりとりを 分析することで

サービスとは何か

という本質を 探っていくことが できます!

いろいろと気を遣い 世話をしてくれるのが サービスだと思って いませんか?

でも一方で こんなお店のほうが 「高級店」 「価値がある」と 感じることがあるでしょう

たとえば

なぜか親方が **いつも怒っている** 鮨屋!

怖い

でも有名で 人気の店……

経営管理大学院 山内裕 准教授

お金を払ってるのに 怒られるって おかしいじゃない ですか~!?



そんな店に行く人は いったい何が良くて 行くんですか!?

高級な鮨屋では 愛想よく説明をして くれませんよね

> 説明しなくても わかるだろと 客に問うているのです

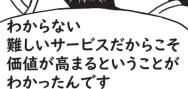
これに対して 客の側は それを当然のように 受け入れることで 自分が通である ことを示せます

「この店の サービスは 格が高いのだ」

Way Millians というイメージが こうやって つくり上げられて いるんです



敷居の低いサービスは 客にとって 価値のあるものに 映らないのだ







わかりやすく 居心地がいいは 価値が低いんです

否定されるかもしれない



という緊張感のなかで 「自分はこのサービスに ふさわしいんだ」と 主張することも ひとつの価値なのです





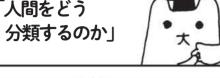
はやのん理系漫画制作室

第3回 「人間をどう 私は文化人類学…… 人種・エスニシティ論や 移民について研究しています

> この分野には たとえば

「人間を どう分類するのか」

> という問いが あります



知ってますよ! 白人とか 黒人とか……

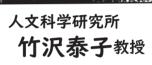
> 日本人は 黄色人種 ですよね?



ところが 生物学的には人間を 「人種」と言って キッパリと 種類分けすることは できないんです

「人種という ものはない」と 言ったら…… びっくりしますか?





たしかに 肌の色や目の色 髪の色などの 体の特徴の違いは あるのですが……

祖先をたどると じつにさまざまな 人間と人間の組み合わせから 次の世代が生まれていることが わかるはずです

人間は外見的特徴で キッパリと分けられるものではなく グラデーションのように 少しずつ違いがあるものなんです



それでも 人は人間を 分類しようとします

誰が何のために どのように 分けるのでしょうか?

これを 追い続けることで 様々な発見が ありました

近代の欧米では 奴隷制や先住民支配など 他のいろいろな大陸の人々を 「野蛮」で「劣等」な 人種として 長く支配しました

明らかに 自分たちとは 見た目の違う 「他者」

そしてこれを 「支配」する という関係……

人間を皮膚の色で 分類しようという分け方は 植民地時代からの 「環大西洋的な世界観」で つくられた考え方でした

つまり 「人種」とは 支配側の都合による 分類だったのです!

そのように西洋では 人間は肌の色により 分類されてきましたが 日本では昔から 人間を肌の色で分けていた わけではないんですね

安土桃山時代から江戸初期の 南蛮屏風の絵に描かれた スペインやポルトガルの 宣教師たちの特徴について

目や鼻の形は意識していたのに 肌の色にはそんなに こだわって描き分けがされて いなかったということも わかっています







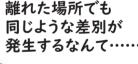
気にしていた ポイントが 違うんですね!

しかし日本では昔から 生まれながらの職業や 「血」にこだわった 差別がありました

その社会によって 「他者」の分類基準が 違うんですね



また 中世の日本とヨーロッパの 被差別民に対する 差別の構造には とても似ている部分も あるんです



違うところや 似ているところを 比べて考えたり…… この分野の研究から 人間そのものについて いろいろなものを 感じますね!



このような私たち 「環太平洋的な世界観」 から考える人種を 現在の欧米中心の 人種理論とつなげて いきたいと思っています

> 日本やアジアの 視点を活かして 欧米中心の理論を 揺るがす発見が まだまだあるはずです!



女性や異文化出身など マイノリティの視点が ますます重要になる時代です

> さらに研究が 広がっていく ことでしょう











統計学は 物理学や経済学など 多くの学問を実証しています

> 数理科学のどの分野も 統計学を用いて 実験や観察を 行なっています

しかし統計学は 自分自身を 実証することができない・ 証拠立てることができない

> ということに 気が付きました



!?!?

これだけ他の学問の正しさを 実証している統計学ですが

自分自身のことは 実証できないんです!

自分のことが 見えないよ~?

では こういった事態を どのように考えたら いいのか…

考え続けています!

よく見えてるよ!

本当に頼もしいね! 00 ×., OO

と思います

他の分野の人が 自分の足場として 頼りにして 疑いもしないものを

疑い・そして 正体をさぐる わけですね…



数理……哲学!!

00

1

古代ギリシャからの 伝統的な「西洋哲学」が 受け入れない概念……

## 「矛盾」

この「矛盾」を 受け入れながらも 論を進めていくという手法は 京都大学の哲学「京都学派」の 特徴的な考え方なのです!

「矛盾こそが真実」 という京都学派のやりかたで これまで見えなかったものが 見出せるかもしれません

> さまざまな 切り口・手法…… 新しい発見のため 日々考えています



哲学…… わかったような わからないような… あとを引く おもしろさ…???



(おわり)

## 京都大学

はやのん理系漫画制作室

第5回 「災害から見える 地域の姿」 「今回は災害を通して インドネシア地域研究をしている 西芳実先生のお話です!

西先生……

地図をよく見ると インドネシアって 島がたくさんあって 東西に広い国 なんですね!



## そうなんです!

アメリカ合衆国と 同じくらいの 幅の国土に 16,000以上の島

> その中に 2億6,000万人が 暮らしている国です

バンダアチェ

「言語・方言は数百に分かれ 民族・階層と 多様な人々で社会が つくられている国なんですよ

> とても フクザツ そうですね ┣

私はもともと
インドネシア現代史の研究者で
1997年から3年間
スマトラ島にある
バンダアチェに暮らし
研究をしていました

首都ジャカルタ

ところが その後2004年 スマトラ島沖地震が 発生し……

**(3)** 

インドネシアの 最西端に位置する バンダアチェも 津波の大被害を 受けたんです

内戦で閉ざされていましたが 調査や人道支援で 国の内外から多くの人々が やって来ました

それまでは

その時 現地のことを 知っている人が 必要になり……

> これがきっかけで 災害対応の 地域研究に 取り組むことに なったんです

東南アジア地域研究研究所 相関地域研究部門

西芳実 准教授





